教会ってこんなところ 3

マイノリティーでもマジョリティーでも

池田季美枝（いけだきみえ）

同性を好きなあなたへ

先生の言うことが正しいとは限らない

こんにちは、Cちゃん。しばらく会っていませんが、元気でいますか？　子どものころは歌を歌うことが大好きで、クリスマスに向けて賛美歌を練習したり、教会学校の礼拝や夏のイベントに参加したりすることが楽しかったと言っていましたね。そんなCちゃんがずいぶん前に会ったときに話してくれたことを今ちょっと思い出しています。

中学生のときに同性を好きになったCちゃんは、信頼していた教会学校の先生にそのことを相談したのでしたね。でも、「同性を好きになるのはいけないこと」と言われて、とてもショックで、教会から足が遠のいてしまったと言っていましたね。私はその教会のことも、その先生のこともよく知りませんが、そんなことを言う先生の方が「いけないこと」をしているなあと思ったものでした。

教会にはいろいろなマイノリティー性を持つ人が集まる

同性愛者には日本ではまだ十分な人権がありません。同性婚や同性パートナーシップ法は先進諸国のように国としてはまだ認められておらず、それゆえ年金、保険、遺産、財産共有など、結婚している異性愛のカップルと同じような保障や権利が同性同士のカップルには与えられていません。

日本社会はそんな遅れた状況だし、親御さんにだってなかなか理解してもらえなかったりします。そんな中で、教会の人からも否定されてしまったときのショックは計り知れないと思います。神の子イエスは、障害のある人や重い病の人、女性、子どもたちなど、聖書が書かれた時代に十分な人権が与えられていなかった人々に近づき、癒やしました。そ

れは、社会的弱者、強者、あるいはマイノリティー、マジョリティーを問わず、神の愛が等しく与えられていることを示すためでした。聖書は、そんな神の愛を伝える書物で、教会はそれを伝えるところです。

教会には昔から、身体、こころ、性、職業などにおいて、いろいろなマイノリティー性を持つ人たちが集っています。そのマイノリティー性は、Cちゃんがそうであるように一見わかりにくい人も多いです。何らかのマイノリティーであることをカミングアウトすることもカミングアウトしないことも、誰かに強制されるようなことではありません。ただ、いろいろな違いの中で私たちは、神の子イエスを真ん中にしてこころをひとつにして祈ろうとしています。

今私が赴任している教会はCちゃんの住むところから電車1本で来られますから、一度ぜひ訪ねてきてください。Cちゃんが好きな音楽のコンサートをするときや音楽礼拝などがいいかもしれませんね。今度、案内状を出します。また会える日を楽しみにしています。

〈2023年6月号。茨城・牛久教会牧師〉

教会ってこんなところ 6

人と人とが向かい合うヒント

片岡賢蔵（かたおかけんぞう）

テレビ制作会社の元同僚のあなたへ

人の喜ぶ顔を見たいのは同じ

Fさん、いつも制作した報道番組のお知らせメールありがとう。「もう、いいかげん飽き飽き……。早く転職したい」って嘆きながらも、割といい番組作るよね。楽しんで見ています。私もFさんと同じ職場で働いていたとき、いつまでこんな仕事を続けていくんだろうかってずっと考えていたから、Fさんから着信があると、胸の奥がきゅっとなります。

こちらは牧師になって、８カ月がたちました。２０２５年には創立１５０周年という歴史のある新潟の教会で、まあ何とか元気にやっています。牧師の一番の仕事は、毎週日曜日に30分くらいかな、聖書のメッセージを語ることです。いつも講壇に上がるときは、とても緊張します。たくさんの信徒の方々が見守る静かな礼拝堂で、口を開くのですから。終わった後はへとへと。全身から力が抜けていく感覚です。その後、玄関に立って、来てくださった一人一人とあいさつをします。すると、皆さん、会堂に入って来るときの顔と、会堂から出ていくときの顔が違っているんですよ。

「人の喜ぶ顔を見たいよね」。Ｆさんと、よくそんな話をしましたね。でも、番組の放送が終わると電話が鳴り響いて、そのほとんどはクレームで。もう随分前からテレビはあまり信頼されなくなりました。誰のためにメッセージを語っているんだかわからなくなります。その中でも踏ん張りながら視聴者のためにと、今も番組を作り続けているのですから頭が下がります。

でも、もし仕事に疲れ切っていて、ネタ切れだって感じていたら、教会に来てテレビ取材してみませんか。人の喜ぶ顔、ここで見られます。ここでは、メッセージが一方通行ではなくて、何というか響き合っているんです。きっと神さまへの信頼から生まれてくるも

のです。だから、私は今、自分の力を信じなくてよくなりました。

人との関わりは向き合うことから

不思議ですよね。牧師って神さまのメッセージを語るのが仕事のようですけれど、牧師になったら、より人間の顔が近くなった感じです。そうそう、牧師は礼拝の最後に、教会に集められた方々に向けて、手を上げて祝福をするんですよ。こんな言葉です。

「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように」

その場にいる一人一人を励まして新しい1週間の歩みに送り出す、そんなあいさつです。もしかしたら、人と人とが向かい合うヒントが、ここにあるのかもしれません。

ぜひ、また会いましょう。くれぐれも健康に気をつけて。Fさんの上に神さまの祝福がありますように。

〈2024年10月号。新潟・東中通教会牧師〉

教会にいるのはこんな人４

いつもニコニコ顔でいられる秘密

広瀬香織（ひろせかおり）

クリスチャンホームに育ったあなたへ

なぜいつも笑顔でいられるのですか？

Kくん、こんにちは。お久しぶりです。お元気ですか？　小学校を卒業して以来お会いしていませんが、同級生だったあなたに、なぜか急に手紙を書いてみたくなりました。

私たちが卒業してから長い年月がたちました。失礼ですが、当時あなたは特に勉強ができるタイプではなく、運動ができるタイプでもありませんでしたね。かけっこでビリに

なったときも、特に悔しがることはなく、他の子たちがあなたをからかっても、何か言い返すこともせず、いつもニコニコ笑っていましたね。私はそれがとても不思議だったのです。

ある日、私はあなたの家に遊びに行きました。あなたの家にはご両親とおじいちゃんがいて、私を温かく歓迎してくれました。みんなKくんみたいにニコニコしていて、とても仲が良さそうな家族です。なんでこんなに笑顔でいられるのだろう？　と思ったものです。なぜなら私の家族は正反対で、みんな血気盛んでよくケンカをしていたからです。

しばらく遊んでいると、お母さんが部屋におやつを持ってきてくれましたね。手作りのおいしそうなケーキでした。私はフォークを手にケーキをすぐに食べようとしました。でも私の横にいたあなたはケーキを前にして、目を閉じ静かに手を組んで何かブツブツつぶやいていました。それで私はあなたに聞きました。「今、何をブツブツ言っていたの？」Kくんはニコニコして答えましたね。「神さまに、ケーキをくださってありがとうございます！　と感謝のお祈りをささげていたんだよ」。これでKくんと、Kくんの家族がクリスチャンだということがわかりました。私が生まれて初めて出会ったクリスチャンがKくんだったのです。

弱い者の味方でいてくれる人

Kくんの「ニコニコ」の秘密は教会にあるかもしれない！　と思い、Kくんと一緒に教会学校に行きました。そこでじゃんけんゲームをしたとき、先生は最後まで負け続けた子の肩を抱いて、みんなにこう言いました。「イエスさまは弱い者の味方だよ。どんなときもイエスさまはみんなを愛していて、一人一人の味方なんだよ！」ついにニコニコの秘密がわかりました。イエスさまが味方でいてくれるから、勝っても負けてもニコニコしていることができたんですね！

Kくんがこんなふうに教会の扉を開いてくれたから、私もイエスさまに出会うことができたんです。あれからどんどん扉が開いて、ついに牧師になるための神学校の扉も開きました。あなたのニコニコ顔のおかげで、私は牧師になったんです。

今度は私が、新居浜教会の扉を開けて誰をも迎え入れたいと待っています。もちろん、あなたのことも待っていますからね！

〈2023年11月号。愛媛・新居浜教会牧師〉

あなたは招かれています３

教会で一緒に笑いませんか

潮（うしお） 義男（よしお）

信仰に「笑い」は必要ないと思っているあなたへ

ネクラな自分を歓迎してくれた教会

キミから受けた電話をよく覚えています。受話器を取るなりの会話でした。

「聖書に誰かが笑う場面って、ないですよね」「どうしてそう思うのですか」「ぼくは、笑いは信仰に必要ないと思うんです」「あなたはクリスチャンですか」「ミッション系大学で聖書概論の授業を取ってます。教会には行ってませんが……」「あなたの人生で、笑い

はどういう意味を持っていますか」「笑いは、嫌なんです。拒否します」

こういう電話をかけてきたキミの気持ちはわかるような気がする。実はぼくも青年時代、同じように考えていた。今でいう、ネクラかな。苦行僧のように、歯を食いしばって何かを求めていた。笑うことなんか不謹慎と思い、軽いやつらをバッサバッサと切り捨てたもんだ。

でも、行き詰まった。暗いところを好み、光を避けていた結果、「死」を意識するほどに孤独になった。そして20代の終わりにふと思い立って教会の門をくぐった。孤高を気取っていたぼくの深くに、教会での礼拝や人間関係、そして聖書をとおして、「私は、神に愛された私である」という新しい自己理解が染み込んできた。つまり、教会こそネクラ人間大歓迎のところなんですネ。

こころの底から笑えるようになる

ところで、聖書も笑いを描いているんですよ。例えば旧約聖書の創世記18章以下に、こんな場面があります。

アブラハムという99歳になるおじいさんに、神さまの使いが現れて告げます。「来年の

今ごろ、あなたの妻のサラ（89歳！）に赤ちゃんが生まれます」。物陰で聞いていたサラおばあさんは、ひそかに笑いました。この笑いは、冷笑、せせら笑いですね。

1年たって、なんと預言どおりに男の子が生まれます。すると、サラは、今度はにっこり笑いました。それは喜びの笑いですね。赤子は、「笑い」という意味の「イサク」と名付けられました。

聖書にはこういう言葉もあります。「今泣いている人々は、幸いである、あなたがたは笑うようになる」（ルカによる福音書6章21節）。今涙に暮れているあなたも、必ずもう一度、喜び祝い、喜び躍り、喜び歌い、こころの底から笑うことができる。そのために、私はいつもあなたと共にいる。神さまの独り子、イエスさまがそう約束してくださるんです。

せせら笑いは、明るいほほえみに変えられる。涙も、感謝と喜びの笑いに変えられていく。これが神さまがなさることですし、私が教会で経験したことでもあります。

電話の最後に、教会に行ってみたいと言ったね。次の日曜日、待っています。それがキミの人生の新しい始まり、光の中を歩く、喜びと感謝の人生の一歩となることを祈ります。

〈2020年10月号。掲載時、宮城・仙台青葉荘教会牧師。現在、隠退教師〉